

教 育 研 究 業 績 書

2020年 5月 1日

氏名 森 雅 人

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
1. 地域社会論 2. 民俗学 3. 観光	地域活性化、社会調査、まちづくり 宗教、祭り 観光文化、コミュニティ・ツーリズム、プラットフォーム	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
1) 社会調査及びフィールドワークの実践	平成4年～現在	・演習及び社会調査関連の授業で実施した主な社会調査としては、「小樽潮祭りと地域社会」「YOSAKOIソーラン祭りにおける参加者ネットワークの形成」「熊野古道におけるボランティアガイドの研究」「利尻富士町における観光資源の調査」「恐山観光とパンフレット分析」「千歳支笏湖水濤祭りおよび小樽雪あかりの路における観光イメージ調査」「千歳空港駐車場利用者の動態調査」「札幌市円山動物園における来園者満足度調査」などがある。質的調査・量的調査のいずれも実施しており、量的調査の分析においては多変量解析法を用いた。
2) 高大連携によるフィールドワークの実践	平成16年4月～平成16年8月	・札幌商業高等学校（現北海学園札幌高等学校）との連携による仁木町フィールドワークの実践においては、質的調査の実施を前提に、調査地に関する基礎的資料・文献の収集、テーマの決定、質問項目に関して事前学習を行い、聞き取り調査を実施した。
	平成17年7月	・北海道清水高等学校との連携事業として、清水町の観光資源を発掘し、オリジナルマップ作りに取り組んだ。駅などの公共施設に設置することで観光客に対する地域のPR活動に貢献した。
3) 「課題研究」の指導	平成26年4月～現在	・観光に関する知識の習得を目的に、観光と地域社会との関わりを理解するための知識や方法を学ばせている。八雲町熊石地区の観光振興策を検討するため、夏休み期間を利用してフィールドワークを実施する他、ヒアリングやグループワークの手法を用いて基礎データを収集し、SWOT分析によって具体的提案に結びつける。
4) 社会調査及びフィールドワークの実践	平成26年5月～現在	・専門演習及び課題研究で実施した社会調査としては、八雲町熊石地区のヒアリング調査があり、その成果は『八雲町熊石地区の活性化に関する調査報告書』（札幌大谷大学社会学部、平成26年度）にまとめた。 ・4年及び3年のゼミ生合同で支笏湖地域の観光振興に関するアンケート調査を実施し、『平成26年度支笏湖地域冬期利用実態調査等業務報告書』（一般社団法人自然公園財団支笏湖支部、平成27年3月）に収録した。 ・積丹町、北海道大学大学院水産科学研究院等との共同研究「積丹サーモンプロジェクト」に参画してフィールドワークを実施した（平成26年度）。 ・寒地港湾技術研究センター、札幌国際大学との共同研究「離島観光研究」の一環として利尻・礼文両島のフィールドワークに参画した（平成26年度）。

事 項	年月日	概 要
2 作成した教科書, 教材 1) 「観光学入門」 別途記載	平成17年3月	札幌国際大学、 ・<平成16年度大学教育高度化推進特別経費「観光教育における教授法の研究」>内容変更 (担当部分) pp. 20～26 「4 国際観光客」 pp. 54～60 「9 観光地 - 登別 - 」 観光における初期導入教育のテキストとして「何を教えるべきか」という視点で構成した。近年注目されているインバウンドについて、現状と課題について触れ、外国人観光客の受け入れにおいて先進的取り組みをしている登別の事例を紹介した。 (共著者) 越塚宗孝、安尻大輔、遠藤勲、 <u>森雅人</u> 、五十嵐元一、神野徹郎、成澤義親、宍戸学、吉岡宏高
2) 「観光事業論」 別途記載	平成18年3月	札幌国際大学 ・<平成17年度大学教育高度化推進特別経費「観光教育における教授法の研究」> (担当部分) pp. 8～14 「千歳観光連盟」 観光の意義、効果に着目し、観光を促進させる活動の総称である観光事業について、公的・私的部門の観光事業並びに観光地における観光事業について概説した。観光事業の担い手である観光行政と観光経営の中間に位置づけられる社団法人千歳観光連盟の役割分析を通して、広域観光のあり方について記述した。 (共著者) <u>森雅人</u> 、越塚宗孝、市岡浩子、五十嵐元一、丹治和典、中鉢令児、吉岡宏高
3) 「北海道観光マスター検定公式テキスト」 別途記載	平成18年9月	(社) 北海道商工会議所連合会 ・(担当部分) pp. 69～80 「第5章 北海道の祭り」 観光客に対して、ホテル・旅館業など観光関連業者が、質の高いサービスを提供し、おもてなしの心を持って接することで、観光客の満足度の向上やリピーター増加に繋げることを目的とした「北海道観光マスター検定」の指定教科書。 (共著者) <u>森雅人</u> 、有山忠男、五十嵐元一、越塚宗孝、肖勇、丹久憲、中村英重、八田裕二、宮武清志、吉井守和、吉岡宏高
4) 「北海道観光ハンドブック」 別途記載	平成19年8月	(社) 北海道商工会議所連合会 ・(担当部分) pp. 79～93 「第5章 北海道の祭り」 北海道観光についての一般向け概説書。北海道の歴史、観光地概要、交通、自然環境などについて平易に解説した。北海道の伝統的な祭り、三大あんどん祭りの他、雪・氷、食、花、火などのテーマに沿って個性的な祭りを紹介した。 (共著者) <u>森雅人</u> 、越塚宗孝、吉岡宏高、葛西理明、丹久憲
5) 「観光学入門」(改定版) 別途記載	平成20年3月	札幌国際大学 ・(担当部分) pp. 17～23 「都市の祭り - YOSAKOIソーラン祭り - 」 近年、海外からの観光客が増加しているリゾート地ニセコや祭り・遺産などの観光資源、旅行会社・ホテル・航空会社の経営、農村と観光、自然と観光について概説的に論じた。都市の祝祭としてのYOSAKOIソーラン祭りの発展過程について論じた。 (共著者) <u>森雅人</u> 、中鉢令児、河本光弘、丹治和典、神野徹郎、越塚宗孝、長谷川修、藤井克宏、吉岡宏高

事 項	年月日	概 要
6) 「北海道地域限定通訳案内士試験ガイドブック」 別途記載	平成20年6月	(社) 北海道観光振興機構 ・担当部分) pp. 115～158 「北海道の文化」 都道府県の区域内でのみ活動することのできる地域限定通訳案内士の資格取得を目指す人のための公式テキスト。アイヌの文化、方言・地名、開拓期文化、生活、年中行事と祭り、文学・詩歌、新たに創られた祭り、人物などについて記述し、北海道の文化的特性について整理した。 (共著者) 森雅人、青山健三、笹木義友
3 教育上の能力に関する大学等の評価 1) 札幌大谷大学社会学部の設置認可申請に伴う教員評価 2) 自己点検・評価評価結果 3) 学生による授業評価, 教員による相互評価等の結果	平成23年 4月	研究上の実績並びに教育歴を本学部の専任教員採用規程に照らし, 担当科目を教授する資質は十分に有すると評価する。
4 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 妹背牛町百年史 上巻〈本編〉 2) 新門別町史(下巻) 3) 新札幌市史 第5巻通史5(上) 4) 平取町百年史 5) 新札幌市史 第5巻 通史5(下) 6) 新增毛町史 7) 北広島市史 上巻 8) 北広島市史 下巻	平成5年11月 平成8年3月 平成14年3月 平成15年3月 平成17年3月 平成18年3月 平成19年2月 平成19年2月	妹背牛町百年史編纂専門委員会 (執筆担当部分) pp. 904～926 「第11章 宗教・信仰 第2節 神社と教会」 門別町史編さん委員会 (執筆担当部分) pp. 517～558 「第7章 民間信仰」 札幌市教育委員会, 1021頁 (執筆担当部分) pp. 990～1001 「第10章第5節 近代の民間信仰」 平取町史編纂委員会, 1721頁 (執筆担当部分) pp. 1031～1056 「第3編第6章 公安と消防・災害」 pp. 1295～1390 「第11章 宗教」、pp. 1473～1622 「第4編 集落史」 札幌市教育委員会, 1053頁 (執筆担当部分) pp. 1021～1029 「第10章第4節 現代の民間信仰」 新增毛町史編さん委員会, (執筆担当部分) 1302頁 pp. 368～394 「第2編第5章 観光」、pp. 695～718 「第6編 宗教・文化」、pp. 1187～1216 「史資料・補遺第3節 戦後にみる生業の変化―聞き取り調査の記録―」 北広島市史編さん委員会編, 616頁 (執筆担当部分) pp. 494～522 「第3編第4章 西の里地区」 北広島市史編さん委員会編, 700頁 (執筆担当部分) pp. 229～247「第4編第5章 観光」、pp. 280～310「第7章第1節 警察・防犯・交通安全」 pp. 311～362「第8章 福祉と保健衛生」

事 項	年月日	概 要
9) 音威子府村史 上巻 本編	平成19年7月	音威子府村史編纂委員会編, 978頁 (執筆担当部分) pp. 842~890 「第3編第8章 社会福祉と保健衛生」
10) 東神楽町史 第四巻	平成27年3月	東神楽町史 第四巻 編さん監修委員会編, 442頁 (執筆担当部分) pp. 339~351 「第17章 スポーツ」 pp. 353~360 「第18章 文化財」 pp. 361~376 「第19章 宗教」 pp. 399~408 「第21章 生活文化」 pp. 409~417 「第22章 観光」
5 その他	平成25年7月 平成25年9月 平成25年10月～平成26年3月 平成25年12月～平成26年1月	<ul style="list-style-type: none"> ・「未来の都市環境創造」(主催; 札幌青年会議所) の指導。 ・「苫小牧紙フェスティバル」(主催; 北海道新聞苫小牧支社) の指導。 ・環状通東商店街及び伏古商店街のまちづくりワークショップ(主催; 札幌市) の指導。 ・北海道札幌手稲高等学校「学び体験ゼミ」講師。
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事 項	年月日	概 要
1 資格, 免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項	平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域における大学生を中心とした「つながりづくり」に関する調査研究」(平成26年度札幌市大学提案型共同研究事業) 審査中 ・平成26年度「地(知)の拠点整備事業」(文部科学省) 審査中 ・「大学と連携した商店街の賑わい創出事業」(経済産業省) 審査中
4 その他		
1) 観光学科長	平成17年4月～平成19年3月	・「観光学部教育五ヵ年計画」を策定し、「連携コミュニティ」を目標に掲げ、地域と連携した体験型学習プログラムの開発、フィールドワークやインターンシップの運営に当たった他、教育力向上のための教授法並びに教材・教室の研究に取り組んだ。
2) キャリア支援部長	平成21年4月～平成22年3月	・学科と協力し、学科所属部員を中心とした指導・支援体制を強化に努めた。文科省の就職GPとして採択されたことにより、学生のキャリア形成を支援する体制を強化した。
3) 観光学部長、観光学研究科長、観光学科長	平成22年4月～平成25年3月	・観光学部長として、募集力向上のための高大連携の新プログラムの作成・実施、初年次導入教育の充実、就職支援と専門教育との接合を推進している。また、観光学研究科長として大学院生の研究環境・研究水準の向上に努めている。観光学科長としては3・4年生を中心とした演習活動の充実や卒業・就職支援に力を注いでいる。

事 項	年月日	概 要		
4) 社会学部地域社会学科・学科長 5) 地域連携センター・センター長 社会連携センター・副センター長 社会連携センター・センター長	平成25年4月～平成28年3月 平成28年4月～平成29年3月 平成29年4月～2019年3月 2019年4月～(現在に至る)	<ul style="list-style-type: none"> ・設置の趣旨に沿った円滑な学部学科運営を行うとともに、ゼミナール担任制度を活用したきめ細やかな学生指導の推進並びに高等学校の学びを土台とした学習基盤の定着を図った。 ・札幌大谷高等学校をはじめ道内大谷関連高等学校及び道内各高等学校との高大連携事業を推進するとともに、道内自治体等との地域連携を強化した。 ・キャリア教育、英語教育、公務員講座、教職講座など、本学科の教育資源の有効活用と多面的な学習機会の提供を進めた。 ・募集力向上のために、高校訪問、出前講義、父母対象進学相談会、教育講演会、パンフレット、ホームページ、ラジオ、新聞等、各種広報媒体を使った広報活動を強化した。 ・COC(知の拠点整備事業)をはじめ大学学部学科の教育・研究シーズを活用した競争的資金確保に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・域学連携事業を推進するとともに、公開講座の拡大と全学的実施の基盤を整備した。 ・国際交流事業では、中華人民共和国雲南省に所在する雲南大学滇池学院との交流を緒につけた。 		
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 北海道の研究 第7巻: 民俗・民族 編	共著	昭和60年2月	清文堂出版(株) 458頁	(担当部分) pp. 1～84 「宗教生活の変容－北海道空知郡栗沢町砺波と母村の年中行事を中心として－」 北海道の地域社会に展開する年中行事が出身地母村と比較して、いかなる変容を遂げたのかという問題について、フィールドワークの成果に基づいて論及した。移住村落におけるリーダー層や宗教的職能者の役割構造を分析しながら、彼らによって当該社会に導入された新たな信念体系としての報徳思想や移住者によってもたらされた母村の伝統的な浄土真宗の年中行事との対立・葛藤から撰取・受容にいたる諸過程を世代的に捉え、習俗変容の諸条件の解明を試みた。 (共著者) 宮良高弘、森雅人、浅利政俊、渋谷道夫、滝沢正、山埜圭子、氏家等、児玉マリ子、福岡イト子、藤村久和、加藤篤美、原田喜世子

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 2. むらの生活：道新選 書 6	共著	昭和63年2月	(株) 北海道新聞社 280 頁	(担当部分) pp. 1～50 「神社と信仰」 北海道の和人社会の形成は明治 20 年代以降に本格化するが、本論文 では、明治以降に開拓された北海道 内陸開拓村落の文化形成過程につい て、北海道へ大量の移住者を送り出 した富山県との比較を通して明らか にすることを目的に記述分析を進め た。神社祭祀を中心として、祭祀組 織と社会構造との関連性を追求し、 文化形成の特徴を指摘すると同時 に、祭りの担い手である若連中（若 者組）の社会的な機能について考察 した。とりわけ郷土芸能である獅子 舞を普及・継承した獅子方若連中の 態様について分析した。 (共著者) 宮良高弘、塚田敏信、森 雅人、小沢真秀、鷹田和喜三、濱久 年、石沢佑子、望月真、石垣和子、 澤田幸子、筒井京子、福山和子、民 志和子、山本愛子、山崎圭子、小田 嶋政子、住谷浩、加藤慶子、谷暎子、 久保孝夫、渡邊滋
3. 北の民俗学	共著	平成 5 年 9 月	(株) 雄山閣出版 248 頁	(担当部分) pp. 70～85 「暮らしと信仰－開拓地の地神信 仰を中心に－」 従来、ほとんど研究が進んでいな かった北海道地域社会に展開する民 俗事象について、祖霊的性格と作神 的性格を併せ持つ地神に注目しなが ら論述したもの。北海道に広く普及 した民間信仰の対象である地神の性 格について、空知管内の開拓村落を 対象として、地域社会の形成過程と の関連で論述し、地神信仰の変容の 諸条件の検討を行った。当該信仰の 支持母体である農事組合のコミュニ ティ機能について分析しながら、地 神信仰を根づかせた要因を探った。 (共著者) 宮良高弘、昆政明、谷本 一志、山内健治、森雅人、小田嶋政 子、石沢佑子、笹森建英、久保孝夫、 澤田幸子、住谷浩、出利葉浩司

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 4. まつりと民俗芸能： 北の生活文庫 9	共著	平成 7 年 4 月	北海道 244 頁	<p>(担当部分) pp. 16～124 「第1章 伝統的まつり」 pp. 172～195 「第3章 現代のまつり」</p> <p>北海道の和人社会の祭りとは民俗芸能を地域性・民俗性を考慮して「海岸地域のまつり」「内陸地域のまつり」に分類して祭祀内容の分析を行った。</p> <p>漁業と関わる竜神信仰・船霊信仰及び農業と関わる地神信仰などの民間信仰や松前神楽、三条神楽、獅子舞などの神事芸能・民俗芸能に加えて、現代のまつり・イベントについても記述した。信仰と結びついた伝統的祭り、地域おこしの現代の祭り、北海道の地域性を反映した祭りなど、テーマごとに整理した。</p> <p>(共著者) 宮良高弘、<u>森雅人</u></p>
5. 現代観光研究	共著	平成 8 年 6 月	(株) 嵯峨野書院 344 頁	<p>(担当部分) pp. 11～16 「観光研究への文化人類学的アプローチ」</p> <p>クリフォード・ギアツの象徴解釈学的な近代文化人類学の知見に依拠しつつ、インドネシア・バリ島における闘鶏の解釈を通して観光文化研究への接近を試みた。機能、民族誌、意味、解釈、象徴などをキーワードに観光対象の理解を目指した。特に観光者と観光対象との相互理解の問題を中心に検討した。観光人類学の可能性として、文化は全体として理解できること、複雑なことを見る上で小さなことから始めることができることを指摘した。</p> <p>(共著者) 香川眞、根橋正一、中崎茂、米田和史、大畑裕嗣、越塚宗孝、新納克広、谷内洋一郎、<u>森雅人</u>、谷口義雄、梅村匡史</p>

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 6. シャーマニズムと その周辺	共著	平成 12 年 12 月	(株) 第一書房 357 頁	<p>(担当部分) pp. 143～156 「北海道の民俗宗教に関する一考察―道南地域における稲荷信仰の拠点形成を中心として―」</p> <p>北海道の日本海沿岸地域に分布する稲荷神信仰と宗教拠点の形成過程を、江差町笹山稲荷を事例としつつ民間の巫業者との関わりにおいて追求した。津軽地方と北海道との生活文化レベルの比較研究の成果を踏まえ、巫業者の活躍によって伝統文化が再構築される事例を巫の再生という視点から分析した。近世までの笹山稲荷は仏教講によって支えられてきたが、近代においては津軽高山稲荷の行者の活躍によって新たな信仰の形態が定着した。</p> <p>(共著者) 櫻井徳太郎、佐藤憲昭、谷口貢、義江明子、小林敏男、長谷部八郎、森雅人、牧野眞一、高見寛孝、菅原征子、加藤正春、小川順敬、安田ひろみ、大野祐二、杉井純一、内山明子、佐々木宏幹</p>
7. よさこい／YOSAKOI 学リーダー ディングス	共著	平成 15 年 12 月	開成出版 (株) 211 頁	<p>(担当部分) pp. 18～29 「札幌 YOSAKOI ソーラン祭りの研究」</p> <p>全国各地で行われている「よさこい系」の都市祝祭を対象として大衆文化、現代社会、地域文化の在り方について考察した。祝祭イベントが形成する新たな社会関係の意味と、その媒介機能について注目して記述した。YOSAKOI ソーラン祭りは商業主義や擬似文化という文脈のみで理解することは困難であることから、何度も優勝経験のある平岸天神チームが郷土芸能を育成する商店街振興組合を母体としていることに注目して記述した。</p> <p>(共著者) 森雅人、内田忠賢、大坂祐二、矢島妙子、阿南透、才津祐美子、岩野聡美</p>

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 8. 観光教育における 教授法の研究	共著	平成16年3月	札幌国際大学観光学部 72頁	<p><大学教育高度化推進特別経費> (共同研究のため本人担当部分抽出不可能)</p> <p>高等学校、大学という高等教育機関において、どのような教授がなされているかを調査し、その状況を明らかにした。さらに札幌国際大学を事例に、観光教育の教授に関する調査を実施し、その実態を明らかにした。全国で観光教育を行う高等学校4校、全国で観光教育を行う大学10校を選抜し、資料収集と授業観察を行い、授業を行う教室の設備と環境、教員の授業の運営方法、教授の方法などについて改善すべき点を析出した。</p> <p>(共著者) 森雅人、越塚宗孝、梅村匡史、丹治和典、張貴民、宍戸学、谷口善雄</p>
9. 観光学入門	共著	平成17年3月	札幌国際大学観光学部 79頁	<p><平成16年度大学教育高度化推進特別経費「観光教育における教授法の研究」> (担当部分)</p> <p>pp. 20~26 「4 国際観光客」 pp. 54~60 「9 観光地 - 登別 - 」</p> <p>観光における初期導入教育のテキストとして「何を教えるべきか」という視点で構成した。近年注目されているインバウンドについて、現状と課題について触れ、外国人観光客の受け入れにおいて先進的取り組みをしている登別の事例を紹介した。</p> <p>(共著者) 越塚宗孝、安尻大輔、遠藤勲、森雅人、五十嵐元一、神野徹郎、成澤義親、宍戸学、吉岡宏高</p>
10. 観光事業論	共著	平成18年3月	札幌国際大学観光学部 76頁	<p><平成17年度大学教育高度化推進特別経費「観光教育における教授法の研究」> (担当部分) pp. 8~14 「千歳観光連盟」</p> <p>観光の意義、効果に着目し、観光を促進させる活動の総称である観光事業について、公的・私的部門の観光事業並びに観光地における観光事業について概説した。観光事業の担い手である観光行政と観光経営の中間に位置づけられる社団法人千歳観光連盟の役割分析を通して、広域観光のあり方について記述した。</p> <p>(共著者) 森雅人、越塚宗孝、市岡浩子、五十嵐元一、丹治和典、中鉢令児、吉岡宏高</p>

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 11. 北海道観光マスター 検定公式テキスト	共著	平成18年9月	(社)北海道商工会議所 連合会 124頁	(担当部分) pp. 69～80 「第5章 北海道の祭り」 観光客に対して、ホテル・旅館 業など観光関連業者が、質の高い サービスを提供し、おもてなしの 心を持って接することで、観光客 の満足度の向上やリピーター増加 に繋げることを目的とした「北海 道観光マスター検定」の指定教科 書。ホ街道の伝統的な祭り、北海 道三大あんどん祭り、雪・氷の祭 り、食をテーマとした祭り、花を テーマとした祭り火をテーマとし た祭り、花火大会、スポーツ大会、 イルミネーション、音楽祭・演劇 祭について記述した。 (共著者) 森雅人、有山忠男、五 十嵐元一、越塚宗孝、肖勇、丹久 憲、中村英重、八田裕二、宮武清 志、吉井守和、吉岡宏高
12. 北海道観光ハンドブ ック	共著	平成19年8月	(社)北海道商工会議所 連合会 142頁	(担当部分) pp. 79～93 「第5章 北海道の祭り」 北海道観光についての一般向け 概説書。北海道の歴史、観光地概 要、交通、自然環境などについて 平易に解説した。『北海道観光マ スター検定公式テキスト』の改定版 であり、改定に当たって、新たに 地域の祭りを加筆して、地域の特 徴を生かし、また地域の産業振興 などを目的とした41の祭りやイベ ントを紹介した。食をテーマとし た祭りや花をテーマとした祭りに ついて記述内容を充実させた他、 観光資源としてのスポーツイ ベントも詳細に記述した。 (共著者) 森雅人、越塚宗孝、吉 岡宏高、葛西理明、丹久憲
13. 観光学入門	共著	平成20年3月	札幌国際大学観光学部 98頁	(担当部分) pp. 17～23 「都市の祭り －YOSAKOIソーラ ン祭り－」 近年、海外からの観光客が増加 しているリゾート地ニセコや祭 り・遺産などの観光資源、旅行会 社・ホテル・航空会社の経営、農 村と観光、自然と観光について概 説的に論じた。都市の祝祭として のYOSAKOIソーラン祭りの 発展過程について論じた。 (共著者) 森雅人、中鉢令児、河 本光弘、丹治和典、神野徹郎、越 塚宗孝、長谷川修、藤井克宏、吉 岡宏高

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
<p>(著書)</p> <p>14. 北海道地域限定通訳案内市試験ガイドブック</p> <p>15. 「それでも大学が必要」と言われるためにー実践教育と地方創生への戦略ー</p>	<p>共著</p> <p>共著</p>	<p>平成20年6月</p> <p>平成28年5月</p>	<p>(社) 北海道観光振興機構 158頁</p> <p>(株) 創成社</p>	<p>(担当部分) pp. 115～158 「北海道の文化」 都道府県の区域内でのみ活動することのできる地域限定通訳案内士の資格取得を目指す人のための公式テキスト。アイヌの文化、方言・地名、開拓期文化、生活、年中行事と祭り、文学・詩歌、新たに創られた祭り、人物などについて記述し、北海道の文化的特性について整理した。 (共著者) 森雅人、青山健三、笹木義友</p> <p>(担当部分) pp. 123～137 「第7章 社会調査と地域課題の抽出ー大学におけるアクティブ・ラーニングの取り組みー」 アクティブ・ラーニングの実践例として、正課・非正課で筆者が取り組んだフィールドワークを題材に、その意義を考察した。 (教著者) 森雅人、大平義隆、川村雅則、久野寛之、樽見弘紀、南島和久、濱地秀行、平岡祥孝、宮地晃輔、山本裕、吉本諭</p>
<p>(学術論文)</p> <p>1. 年中行事</p>	<p>共著</p>	<p>昭和52年3月</p>	<p>青森県中津軽郡相馬村 紙漉沢実態調査報告 (札幌大学教養部) 8号 pp. 112～124</p>	<p>(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 北海道の生活文化と関連性が強いと指摘されてきた青森県津軽地方のモノグラフ的調査研究の成果である。戦前・戦後の年中行事を比較しながら、主として村落組織や家族・親族、生業、信仰との関連において個々の年中行事の特徴を構造的に捉えるとともに、年中行事変容の要因として、出稼ぎなどによる人口流出、農業栽培技術の高度化、新暦導入による農耕儀礼の形骸化など、農村を取り巻く社会的変化の諸相と問題点について指摘した。 (共著者) 森雅人、松木功</p>

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 2. 年中行事	単著	昭和53年3月	富山県西砺波郡福光町 坂本・山本・小山実態調 査報告 (札幌大学教養部) 9号 pp. 143～153	北海道の内陸開拓地に移住者を 多数排出している富山県東西両砺 波郡の中から、砺波平野のほぼ中 央に位置する地域社会を抽出して 実施した調査結果に基づく研究で ある。当該地域の特徴は構成戸の 多くが浄土真宗の檀家であるた め、特に地域内の各戸を強く結び 付けている宗教的講行事に注目し て記述したが、各戸単位で開催さ れる報恩講、年齢集団による若衆 報恩講、小地域集団の各戸が持ち 回りで開催する小寄お講などの実 態を明らかにした。
3. 年中行事	共著	昭和54年3月	富山県東砺波郡平村下 出・高草嶺・東中江・入 谷実態調査報告 (札幌大学教養部) 10号 pp. 154～163	(共同研究のため本人担当部分抽 出不可能) 北海道苫前郡羽幌町平地区の母 村を研究対象とした調査である。 当該地域の真宗門徒は各集落に設 置された念仏道場と手次寺の両方 に帰属する二重檀家制度をとって おり、その特徴を踏まえて、各戸 単位で執行される一般的な年中行 事に加えて、道場単位で行われて いるお講、寺の報恩講、お七夜様 などの講行事について重点的に記 述をすすめた。地域社会における 門徒団の結束の態様及び家制度と 祖先祭祀との重層的関係について 構造的に分析を行った。 (共著者) 森雅人、藤田和子
4. 経済的集団	共著	昭和54年3月	富山県東砺波郡平村下 出・高草嶺・東中江・入 谷実態調査報告 (札幌大学教養部) 10号 pp. 361～367	(共同研究のため本人担当部分抽 出不可能) 北海道苫前郡羽幌町平地区の母 村を研究対象とした調査である。 農村社会に見られるユイ、コーリ ャクと呼ばれる家と家との長期・ 短期の労働交換の仕組みを明らか にするために、集落内全戸を対象 として行われる総普請や地域内の 親族関係を基軸として行われる家 普請などの共同労働構成員や参加 原則、作業内容などの事例分析を 通して、構成員の役割や社会関係 について検討を加えた。また、住 民相互の経済的援助を目的とした 頼母子講・無尽講の事例分析も行 った。 (共著者) 森雅人、木元辰彦

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 5. 年中行事	共著	昭和55年3月	北海道苫前郡羽幌町平 実態調査報告 (札幌大学教養部) 11号 pp. 437～445	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 当該地域は富山県東礪波郡平村の移住村であり、年中行事の概要に触れながら、浄土真宗の檀家が多いという地域的特性を踏まえて、家単位で行なわれる仏教行事に加えて移住もなく浄土真宗の檀家によって御講会が開催され、地域門徒の組織化がすすめられたことについて重点的に記述した。また、若連中を主体として獅子舞が奉納されたことなどを取り上げ、母村文化の再構成と次世代への継承過程について記述した。獅子舞文化を担う若連中の加入原理や獅子舞の演目について詳述し、母村との比較検討を行った。 (共著者) <u>森雅人</u> 、藤田和子
6. 経済的集団	共著	昭和55年3月	北海道苫前郡羽幌町平 実態調査報告 (札幌大学教養部) 11号 pp. 126～133	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 労力交換の形態を農作業に関するもの、臨時に行われるもの、村落全体で行われるものに分類し、特に農作業の労働交換においては親類間で行われるテマガイを取り上げ、母村でのユイ、コーリャクとの比較を行った。北海道においては、手間ガイという労力交換の形態が見られるものの、その期間は限定的であり、炭鉱の主婦などを主力としたデメンと呼ばれる金銭で雇われる人夫の存在が、農作業に必要な労働力を補完していることを指摘した。 (共著者) <u>森雅人</u> 、永井光博
7. 親族	共著	昭和57年3月	北海道苫前郡初山別村 有明実態調査報告 (札幌大学教養部) 12号 pp. 271～280	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 自己を中心として父方・母方双系的に拡大する親族関係を葬儀の参列者、香典帳、嫁取りの当日嫁の実家で催されるタチイブルマイなど、親族の参集する機会によって区分し、当該地域で用いられるシンルイマキやオヤコマキの意味内容を検討した。通婚圏の地域的・年代的拡大に関する調査データの分析を加味しながら、当該地域社会における親族ネットワークの拡大と、祖先中心的に再編される集団としての特性に関する記述・分析を進めた。 (共著者) <u>森雅人</u> 、石井茂樹

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 8. 同族	単著	昭和57年3月	北海道苫前郡初山別村 有明実態調査報告 (札幌大学教養部) 12号 pp. 282～292	オモヤ(本家)とアライ(分家)間の日常的・非日常的つき合いの内容を検討することによって、集団としての特性把握に努めた。本分家の発展過程を記述するとともに、家の相続や分家創設、婚礼・葬儀、寺院・墓地、選挙における本分家関係の協力関係を分析し、当該社会の構成戸が同族団として一定の連帯性を保持しているのか検討を加えた。当該社会においては、本分家関係が未発達であるため、その機能の多くを親類関係及び近隣関係が補填していると指摘した。
9. 村落生活の変容－ 福島県大沼郡会津 高田町大字松坂地 域の場合－	共著	昭和58年2月	ソキエタス (駒沢大学大学院社会 学研究会) No. 16 pp. 82～111	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) ダム建設によって水没、集団移転が予定された山村のモノグラフ的研究。当該社会の社会的・文化的特質を理解する上で重要な土地割慣行や互助労働をめぐる諸慣行および禁忌習俗が、生業形態の変化、高齢化、ダム建設などによってどのように変容したのかという問題を社会構造との関連において分析した。また、年中行事の変容を把握するため、全戸を対象とした年中行事調査票を分析し、家レベルでの年中行事の差異について把握した。 (共著者) 佐治靖、田村敏和、森雅人
10. 宗教的集団	単著	昭和58年3月	北海道を探る (北海道みんぞく文化 研究会) 2号 pp. 112～125	富山県下新川郡入善町小摺戸の宗教生活を氏子集団、檀徒集団、講中集団に分類して記述を進めた。祭祀組織の面では町村合併以前の旧村を単位とした家々の結合がみられること、神社祭祀や神事芸能(獅子舞)の主要な担い手としての若い衆のメンバーシップが、家内部の個人の地位・序列によっても規定されることなどを検討した。また、北海道に普及した獅子舞の中でも下新川地方の形態についても、今後の比較検討の素材として整理・分類した。

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 11. 宗教的集団	共著	昭和59年3月	北海道を探る (北海道みんぞく文化 研究会) 4号 pp. 192～214	<p>(共同研究のため本人担当部分抽出不可能)</p> <p>北海道札幌市豊平区西岡の宗教集団を氏子集団、檀徒集団、講中集団に分類し、葬送習俗を加えて宗教生活の全体像把握につとめた。とりわけ、焼山五日お講、十二日講、十八日講といった菩提寺の異なる地域的講集団の分析では、講加入の原則が村入りに不可欠の契機となり、家の継承とも密接に関連していることなどを指摘した。檀徒集団では、地域住民の半数以上が帰依している浄土真宗寺院と報恩講などの寺中年中行事における檀家と寺院との関係について記述した。</p> <p>(共著者) <u>森雅人</u>、兼八明彦、五十嵐真樹</p>
12. 村落形成にみる寺院—初山別村有明を事例として—	共著	昭和60年3月	昭和59年度科学研究費補助金(総合研究A)研究成果報告書 pp. 80～83	<p><昭和59年度科学研究費補助金(総合研究A)></p> <p>(共同研究のため本人担当部分抽出不可能)</p> <p>寺院の成立過程を移住動向、村落形成の中に位置づけ、寺院の諸活動と村落内の宗教生活の実態を明らかにし、その展開過程を通して村落社会における寺院をめぐる生活文化の形成を考察した。地域ごとの社寺協会形成史を移住民の動態を関連づけて検討すること、開拓者の精神的共同性をになった信仰の内実を具体的に解明することなどを課題として取り組んだ。</p> <p>(共著者)宮良高弘、松本尚久、<u>森雅人</u></p>
13. 宗教的集団	単著	昭和61年3月	北海道を探る (北海道みんぞく文化研究会) 10号 pp. 297～320	<p>北海道渡島管内戸井町瀬田来の宗教集団を氏子集団、檀徒集団、講中集団に分類し、葬送儀礼と民間信仰を加えて宗教生活の全体像把握につとめた。漁家を中心とする多様な信仰内容について稲荷や竜神をまつた上層漁家の衰退に象徴されるような社会構造の変化、民間信仰や寺檀関係を基軸にして形成された講集団成立の背景を中心に記述した。葬送儀礼については、通夜の前に火葬を済ませる、この地域独特の習俗について、その実態を記述した。</p>

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 14. 氏子集団の機能と 氏子の帰属感につ いて	単著	昭和61年9月	歴史手帳 (名著出版) 第14巻第9号 pp. 53～58	北海道開拓村落における神社の存在形態を把握するとともに、村落形成以降に当該社会へ移住した少数者集団を文化的・社会的基盤の異同に基づいて分類し、これを標石として既存の祭祀組織への適応過程を考察した。通史に記載されている法規上の神社の氏子以外の無願神祠も氏子集団に位置づけ、現在までの氏子集団の形成・発展の過程、世代交代による帰属感の変遷、氏子間の帰属感の相違について検討した。祭祀形態による分析を中心に行った。
15. 宗教	共著	平成3年3月	西岡百年史 (西岡開基祝賀協賛会) pp. 301～328	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 札幌市内の住宅地、西岡地区の宗教生活を神社と氏子、寺院と檀家にまとめたもの。氏神である西岡八幡宮の祭りにおける氏子組織の役割や寺院と檀家組織との関係について重点的に取り上げた。西岡地区は札幌市の人口増加を受けて、近年著しい発展を遂げている。当該地域では、開拓期以来の旧住民と都市化の進展によって新たに移住した住民との対抗関係が生じており、新旧時移民が町内会を通じて活動を展開するにいたった過程に留意しながら記述を進めた。 (共著者) <u>森雅人</u> 、大西崇
16. 北海道の地神信仰と 祭祀－開拓村落を事例とした地域社会の 分析－ (査読付)	単著	平成4年2月	日本民俗学 (日本民俗学会) 第189号 pp. 23～47	北海道に展開する地神信仰とその祭祀に関する記述・分析。明治以降の開拓村落の一典型として雨竜郡雨竜町と同妹背牛町を取り上げ、そこに地神信仰をもたらした香川県人および徳島県人の宗教形成の動向を見据えながら、地神信仰変容の諸条件を探った。先学の研究成果を検討し、地神信仰を祭祀組織との関連で理解し、母村との比較を通して地神信仰変容の諸条件を探った。古風な神祭りの形態や農神本来の古い信仰が見られないことが、北海道における民俗事象の究明が無意味であるという議論に結びつかないことを強調した。

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 17. 宗教的集団	共著	平成4年3月	北海道を探る (北海道みんぞく文化 研究会) 23号 pp. 89～133	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 北海道檜山郡江差町の宗教集団を氏子集団、檀徒集団、講中集団に分類し、鯨漁業の隆盛と衰退を経験した江差社会の構造上の変化にともなう漁家・商家それぞれの信仰内容の個別化と、神社祭祀や既存の民間信仰の対象を中核として支持母体の再組織化が行われていることなど、人間関係の動体的側面から考察した。姥神大神宮と撰社・末社との関係、神輿渡御祭と山車組織との関係などの分析により、京都風文化の強調、地域社会の人々のアイデンティ再構築といった問題を提起した。 (共著者) 森雅人、浅井直子
18. 原木流送仕事唄の調査と新しい継承について—まちづくりグループ《穂別町民劇場》の活動—	単著	平成6年2月	RECテクニカルレポート (静修学園北海道環境文化研究センター) No. 8 pp. 1～20	北海道内のまちづくりグループの人たちが行った研究活動の成果をシリーズとして分析した論考。本論文では、読む、書く、観るを活動の中心に据えてまちづくりをすすめてきた穂別町民劇場というグループを対象とした。同グループは、町民に共通の価値を追求しており、原木流送仕事唄の採譜作業を通して、穂別町で一時代を築いた原木流送に対する住民の歴史認識を深めている。北海道で行われているイベント型地域振興の課題やあり方について論述した。
19. 都市ライフスタイルの研究Ⅰ—はたらく女性の食文化を中心に—	共著	平成6年2月	RECテクニカルレポート (静修学園北海道環境文化研究センター) No. 6 pp. 1～18	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 都市のライフスタイル研究の一環として、はたらく女性の食行動に関する基礎調査を集約した。札幌市の有職女性200名を対象とした調査であり、親元から通勤する20歳代の女性とアパート等で单身生活をする20代後半の女性との間で、類型化しうる食行動のパターンが見出された。OLの食行動を日常の食生活と外食行動に分けた場合、規則性・健康性・経済性が保たれていることが見出された。 (共著者) 大山信義、梅村匡史、越塚宗孝、菅原久美子、森雅人

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 20. インターネット利用によるオートリゾート情報提供の可能性ー地域観光情報の提供手法に関する研究ー (査読付)	共著	平成8年9月	観光 ((社)日本観光協会) 第360号 pp. 48～52	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 高度情報通信社会の進展とインターネットの普及に注目し、新しい観光情報の提供のあり方について考察した。特に、北海道のオートリゾートを事例に、現在の情報提供に対する評価、インターネット利用とその問題点の指摘、今後の可能性を論じた。 (共著者) <u>森雅人</u> 、梅村匡史、越塚宗孝
21. インターネット利用による地域観光情報提供の試みー北海道オートリゾートネットワークのースを中心にー (査読付)	共著	平成8年10月	日本観光学会誌 (日本観光学会) 第29号 pp. 35～54	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) マスツーリズム時代からパーソナルツーリズム時代へと変化する中で、観光者の観光情報取得現象に注目した。インターネットに見られる海外、国内の観光情報の分析を行い、新たな観光情報提供の仕組みを把握した。このような手続きの上、北海道における観光情報提供のあり方をオートリゾートの事例を通じて模索した。利用者サイドから見て、社会制度上の問題のみならず、氾濫する情報の中から真に必要な情報を取捨選択する能力を身につける必要性を指摘した。 (共著者) 梅村匡史、 <u>森雅人</u> 、越塚宗孝、宮武清志、近藤淳子、有山忠男
22. インターネットによる観光情報提供ー登別温泉を事例とした地域活性化戦略ー (査読付)	共著	平成9年5月	日本観光学会誌 (日本観光学会) 第30号 pp. 18～28	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 研究蓄積のほとんどない情報と観光領域における事例研究の蓄積、インターネット上における観光情報の効果的運用の検討を行った。インターネットでの情報収集、情報確認を行った上で、登別温泉を事例にプロトタイプを作成を行った。加えて、地域の意向を把握し、コンテンツの吟味、今後の課題を提示した。インターネットを運用する上での費用対効果、情報の信頼性、適正な情報量、送受信上の技術的問題などを解決すべき問題として提起した。 (共著者) 梅村匡史、越塚宗孝、 <u>森雅人</u> 、須賀武郎、宍戸学

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 23. 北海道21世紀の地 域戦略	共著	平成10年2月	RECテクニカルレポート (札幌国際大学北海道 環境文化研究センター) No23 pp. 22～46	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 明治以降に展開した国家依存の地域開発の歴史を反省しつつ、北海道が新たに向かうべき自立的な地域振興の方向を、地域文化戦略、地域市場戦略、地域環境戦略の3領域から研究し、提言を行った。北海道における地域文化の創造について、地域文化の現状と問題及び北海道における一村一品運動の意義について整理するとともに、北海道におけるまちづくりの現状について記述した。加えて、湯布院を事例としてネットワーク、キーパーソン、アート、盆地、知の態様を把握した。 (共著者) 大山信義、 <u>森雅人</u> 、越塚宗孝、中鉢令児
24. “Tourism Education At Four-year University in Japan”	共著	平成10年3月	RECテクニカルレポート (札幌国際大学北海道 環境文化研究センター) No25 pp. 1～13	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) This study attempts to grasp the status quo of Tourism Education at four-year universities in Japan. The similarities found in terms of curriculum design and specific courses offered. All courses offered in the seven departments are classified into 10 educational domains. (共著者) 越塚宗孝、 <u>森雅人</u> 、梅村匡史、堀内満智子、宍戸学

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 25. 生涯学習のネットワーク化に関する基礎的研究Ⅰー地域振興と生涯学習の視点ー	共著	平成10年4月	RECテクニカルレポート (札幌国際大学北海道環境文化研究センター) No26 pp. 1～21	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 地域、学校、職場、行政などにおける生涯学習社会に向けた取組みを分析し、地域における生涯教育のあり方について提言することを目的とした。本論文では、そのⅠとして高等教育機関を取り巻く問題状況を整理し、教育機関における研修事業や地域大学づくり、学習拠点の整備、指導者育成や連携のあり方などに関する考察を行った。社会教育と地域社会における初等教育・中等教育機関の連携、地域住民の自発性・主体性に支えられた生涯学習活動をリーダーシップ、ライフステージに見合った講座の開設や情報提供など、個人の中の統合と関連した教育の必要性について提言した。 (共著者) 森雅人、鈴木栄一、梅村匡史、松井俊和、尾谷正孝
26. ほべつ町民劇場のコラボレーションの検討と展開ー地域社会活性化の条件をめぐってー	共著	平成10年7月	総合研究開発機構 pp. 143～163	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 地域づくりに求められるコラボレーション(協働作業)のあり方を探った。北海道穂別町の地域づくり集団、ほべつ町民劇場を対象に、その仕組みと成果、観客参加型イベント、「ポーの森の太陽まつり」に果たすほべつ町民劇場の役割、地域づくりに求められるコラボレーションのあり方を考察した。コラボレーションを活かした地域づくりについて、多機能性を備えた人材の発掘、地域住民による積極的な地域活動の支援と地域づくりの主体形成、地域づくりのアイデアを醸成するネットワークシステムの構築について提言した。 (共著者) 森雅人、越塚宗孝、梅村匡史、原子修

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
<p>(学術論文)</p> <p>27. 「生涯学習のネットワーク化に関する基礎的研究Ⅱ—北海道大滝村を事例として—」</p>	共著	平成11年3月	<p>テクニカルレポート (北海道環境文化研究センター) No.31 pp. 7～11</p>	<p>(共同研究のため本人担当部分抽出不可能)</p> <p>本論文は、地域、学校、職場、行政などにおける生涯学習社会に向けた取り組みを分析し、地域における生涯教育のあり方について提言することを目的としている。具体的には、北海道有珠郡大滝村を研究フィールドとして、地域青年の役割期待について調査を行い、課題解明に取り組んだ。高等教育機関を取り巻く問題状況を整理し、教育機関における研修事業や地域大学づくり、学習拠点の整備、指導者育成や連携のあり方等に関する考察を行った。</p> <p>(共著者) 小山忠弘、尾谷正孝、梅村匡史、<u>森雅人</u></p>
<p>28. たった一人が仕掛けた祭り—札幌「YOSAKOIソーラン祭り」— (査読付)</p>	単著	平成11年8月	<p>都市問題 ((財) 東京市政調査会) 第90巻第8号 pp. 39～51</p>	<p>札幌において優良観光イベントに成長したYOSAKOIソーラン祭りを対象に、現代の都市の祭りが形成する新たな社会関係の意味と祭りの媒介機能について考察した。商業主義のレッテルを貼られたYOSAKOIソーラン祭りであるが、YOSAKOIソーランのチームが地域社会から乖離しているのではない。平岸天神チームに象徴されるように、平岸中央商店街振興組合を支持母体としていたのであり、新たに創造されたパフォーマンスの中に、時代の変化に柔軟に対応する地域社会の姿を映し出していると論じた。</p>
<p>29. 地域経済活性化に果たす地方自治体の役割と住民参加—丘珠空港ジェット化の前提条件をめぐって— (査読付)</p>	共著	平成11年9月	<p>北海道自治研究 ((社) 北海道地方自治研究所) 第 356 号 pp. 4～15</p>	<p><北海道地方自治研究所設立30周年記念論文入選二席></p> <p>(共同研究のため本人担当部分抽出不可能)</p> <p>航空規制緩和の流れを受けて、持てる資源をいかに有効に活用し、北海道経済の活性化につなげるかという視点から、丘珠空港をモデルとして、経済効果、合意形成、環境調和について検討を行った。これからの空港づくりに求められるのは、単なる施設の拡充のみならず、その機能を人々がいかに自己の豊かさに結びつけるかという、一や地域に配慮した空港整備の理念や、それに基づいたビジョンであることを指摘した。</p> <p>(共著者) 平岡祥孝、<u>森雅人</u>、千葉昭正</p>

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 30. 北海道における持続可能な観光のあり方に関する研究 - 地域社会におけるエコツーリズムの先進地・斜里町の事例研究 -	共著	平成12年3月	テクニカルレポート (北海道環境文化研究センター) No.37 pp. 1~33	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 知床国立公園内におけるナショナルトラスト運動やエコツーリズムの展開について考察した。その際、自然環境を保全しながら活用する視点及び自然環境への直接的な負荷を軽減する視点から分析を進めた。観光における自動車利用への対応と自然環境への負荷の軽減を目的に1999年に知床国立公園内で実施された自家用車乗り入れ規制を事例として取り上げ、その現状について整理した。また、観光客及び地域住民に対してアンケート調査ないしはヒアリング調査を行い、本施策の課題を析出した。 (共著者) 森雅人、宮武清志、越塚宗孝、梅村匡史、谷口善雄
31. 市街地空港の高質的活用に関する研究—丘珠空港をモデルケースとして— (査読付)	共著	平成12年9月	都市問題 ((財) 東京市政調査会) 第91巻第9号 pp. 87~105	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 空港が立地所在する自治体にとって、環境的要因が政策施行過程に重要な影響を及ぼすことを踏まえて、丘珠空港をモデルに国内外の先進的空港整備の状況を参考にしながら、地域社会と空港との共生の可能性、特に経済的便益と地域生活環境との調査について一定の見通しを提示し、国、北海道、札幌市の空港整備に関わる政策に対して具体的に提言した。具体的には、地元需要を含む後背需要が集積していない新千歳の安易なハブ化は避けるべきであること、環境問題に関して地域住民との合意が得られていない現状で、滑走路の延長に踏み切ることが好ましい姿ではないこと、地域住民との合意形成を成し得るには、具体的に市民が受けるサービスと効果を明確にする必要があることを指摘した。 (共著者) 平岡祥孝、森雅人、千葉昭正

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 32. 熊野古道を歩く一歴史の道の散策と準備―	単著	平成13年3月	札幌国際大学観光教育 年報 (札幌国際大学観光学部) 1号 pp. 32～39	昭和53年に歴史の道に指定された熊野参詣道(熊野古道)について、熊野古道の復元、熊野古道を歩く、熊野古道の魅力、熊野古道を歩く準備から記述を進め、熊野古道の整備状況を概観した後、観光資源としての価値や観光客の動向、語り部の会の活動(本宮町観光ガイド)を探った。地域で有償ボランティアとして活躍する語り部の会が高齢者の生きがい創出にとって極めて重要な役割を果たしていることや観光客受入の閾値モデルを提案する上で示唆的な事例であることを指摘した。
33. 自然環境と山岳信仰―山形県朝日修験に関連して―	単著	平成13年3月	持続可能な環境とコミュニティの創発性に関する社会学的研究 平成11年度-平成12年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究精化報告書 pp. 30～39	<平成11年度-平成12年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))> 持続可能な地域発展を実現するために、観光保全とコミュニティの創発性について明らかにすることを目的とした。地域住民の自然観や、そこから窺い知ることができるであろう宗教観については、従来、史実と切り離され、伝説として処理されてきた。本論文では、山形県の朝日修験の宗教活動を中心に、役小角による朝日岳開山伝説や大沼縁起といった地域住民の主観的歴史の中から朝日修験の宗教活動を把握することに努めた。大沼と朝日権現、朝日修験と小祠、大沼の管理と浮島神事などについて記述した。
34. パーソナルツーリズム時代における観光戦略の研究―地域社会活性化の事例―	共著	平成13年3月	札幌国際大学観光教育 研究年報 (札幌国際大学観光学部) No. 1 pp. 2～13	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) これまでに指摘されてきたマストツーリズム時代のマイナス面を考慮に入れ、新たな観光戦略の枠組みを提示することを目的とした論文。パーソナルツーリズム時代に対応した観光戦略を進める上で、観光地の評価を決定づける人・環境・質の要件へ配慮することの意義について論じた。小布施町で行われている修景事業を、観光客の回遊性を高めた事例として取り上げた。また、IT革命の進展により観光システムの機能性が充足されればされるほど、観光場面における情緒性が重視されることを指摘した。 (共著者) 越塚宗孝、梅村匡史、 <u>森雅人</u>

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 35. 都市基盤整備と地域 住民参加のあり方 —丘珠空港の高質 的活用と住民アン ケート調査結果を めぐって—	共著	平成14年1月	北海道自治研究 ((社) 北海道地方自治 研究所) 第396号 pp. 16～28	<p>(共同研究のため本人担当部分抽出不可能)</p> <p>地方の時代において通基盤整備の効率化が求められているが、既存資源の有効活用やインフラ整備に地域住民の声を反映させるという視点が重要な意味を持ってきている。札幌丘珠空港整備のあり方をめぐる地域住民の意見を分析し、行政が推進すべき課題について提言を行った。都市再開発の視点から見ると、丘珠空港およびその周辺環境整備は極めて不十分な状況であることを指摘した。加えて、空港整備のあり方をめぐる議論が滑走路を含む空港施設整備に中心が置かれているが、航空企業経営の視点から再考することが必要であることを論じた。</p> <p>(共著者) 平岡祥孝、<u>森雅人</u>、千葉昭正</p>
36. 乙部八幡神社「旧神 楽略式」—地域資源の 観光対象化の可能性 —	共著	平成14年3月	札幌国際大学紀要 第33号 pp. 127～145	<p>(共同研究のため本人担当部分抽出不可能)</p> <p>乙部町で漁業を営む工藤家に代々伝承されてきた「湯立神事」を伝える『旧神楽略式』の全文を翻刻するとともに、宇田伝承、工藤氏書上、神道裁可状による時代考察と乙部神社での信仰伝播の吟味から、中世から近世にかけて蝦夷地での和人の信仰の一面を分析した。乙部八幡神社の降神詞に関する神事こそ本来の御湯立神楽の重要な部分を占めていたと指摘した。地域の歴史文化資源・観光資源である松前神楽の普及・発展過程の解明に寄与した。</p> <p>(共著者) <u>森雅人</u>、乳井克憲</p>
37. 祭りと地域文化	単著	平成14年3月	フォーラム人文 (札幌学院大学人文学 部編) 第4号 pp. 45～60	<p>地域社会の祭り・宗教・信仰と人々の生活との関わりについて、北海道を事例に記述した。北海道の祭神と地域差、禊と依り代、祭りの当番、都市の祭り、さっぽろ雪祭りとYOSAKOIソーラン祭りについて概説し、北海道の祭りの特徴について論じた。生業に関連して、豊作や大漁を祈願して自然発生的に祭られた例の他に、北海道には場所の守護や開拓三神のように意図的・政策的に祭られた例があることを指摘し、地域社会への伝播・普及過程の分析では両者の違いに留意すべきと述べた。</p>

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 38. カルチャラル・ツーリズムにおける観光ガイドの役割—熊野古道の語り部を事例として—	単著	平成15年3月	札幌国際大学観光教育研究年報 (札幌国際大学観光学部) 3号 pp. 28～38	多様なツーリズムの中でも伝統文化を観光のアトラクションの一つとして観光客に提供するものは文化観光(cultural tourism)と呼ばれているが、本論文では和歌山県本宮町の「本宮町語り部の会」を事例として、現地ガイドである語り部を通して観光者に提供される「熊野文化」とはどのようなものかを考察した。加えて、ホスト社会の人々の観光文化に対する積極的関与について論じ、コミュニティに基盤を置いた観光事業のあり方についても提言した。
39. 北海道の航空ローカルネットワーク形成のあり方—釧路・函館・稚内のビジネス需要アンケート調査結果をめぐって—	共著	平成16年3月	北海道自治研究 (（社）北海道地方自治研究所) 第422号 pp. 25～36	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 北海道内地方都市と札幌との間の利便性向上を検討すべく、ローカル空港を有する釧路・函館・稚内を対象として、ビジネス需要のアンケート調査結果を分析した。ローカル空港のネットワーク化には、地域差を踏まえた適切な施策が必要であり、空港内施設に関しては、レストラン・売店の営業内容の改善や待合室の拡充がビジネス需要に応えることになることを提言した。 (共著者) 平岡祥孝、森雅人、千葉昭正
40. 北海道の航空ローカルネットワーク形成のあり方—札幌発道内ビジネス需要アンケート調査結果をめぐって—	共著	平成16年7月	北海道自治研究 (（社）北海道地方自治研究所) 第426号 pp. 23～35	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 北海道内の地方都市と札幌との間の利便性向上を検討すべく、道内ローカル空港を有する釧路・函館・稚内を対象として、ビジネス需要のアンケート調査結果を分析した。札幌における飛行機の優位性、適正と考える航空運賃に札幌と地方では乖離があること、札幌圏に二つの空港があることで需要が分散していること、ターミナル機能の機能を充実させる必要があることなど、札幌丘珠空港の潜在的優位性の高さを指摘した。 (共著者) 平岡祥孝、森雅人、千葉昭正

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 41. 北海道航空ローカル ネットワーク形成 のあり方ー根室中 標津空港ビジネス 需要アンケート調 査結果をめぐって ー	共著	平成17年3月	北海道自治研究 ((社)北海道地方自治 研究所) 第434号 pp. 1~9	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 根室中標津空港発ビジネス需要 アンケート調査結果の分析を通し て、札幌丘珠空港を中心とした道 内ローカル空港ネットワーク形成 のあり方を検討した。中標津空港 から札幌までの移動交通手段に飛 行機を選択する者が多く、特に都 心部との距離が近い丘珠空港の利 用頻度は高いと言える。しかし、 航空運賃、発着枠、都心部への交 通アクセス、機材、滑走路、案内 表示、ターミナル施設に関する課 題も指摘された。 (共著者) 平岡祥孝、 <u>森雅人</u> 、千 葉昭正
42. 北海道観光に果たす 札幌丘珠空港の役割 に関する一考察ー函 館線・釧路線の土曜日 ・日曜日の旅客分析ー	共著	平成19年7月	北海道自治研究 ((社)北海道地方自治 研究所) 第462号 pp. 2~11	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 函館線・釧路線を事例として、 2006年8月26日(土)・27日(日) の2日間に実施した札幌丘珠空港 の重要アンケート調査結果の分析 を通して、土曜日・日曜日の丘珠 空港の重要実態を明らかにした。 土曜日・日曜日であっても丘珠空 港利用者はビジネス旅客が多数を 占めた。この点では新千歳空港が 土曜日・日曜日に観光需要が高く なるのとは対照的となった。丘珠 空港で、土曜日・日曜日の観光需 要を喚起するには商品造成に工夫 が必要と結論づけた。 (共著者) 平岡祥孝、 <u>森雅人</u> 、千 葉昭正
43. 北海道の観光振興に 果たす地方空港の役 割ー札幌丘珠空港の 土曜日・日曜日の旅客 分析を中心としてー	共著	平成19年7月	平成18年度助成研究論 文集 ((財)北海道開発調査 総合研究所) pp. 161~198	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 札幌丘珠空港における土曜日・ 日曜日の需用実態を把握し、北海 道の観光振興策の一つとして当該 空港の高質的活用の必要性につい て論じた。 (共著者) 平岡祥孝、 <u>森雅人</u> 、千 葉昭正

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 44. 札幌丘珠空港のアクセスに関する一考察—空港連絡バス利用者アンケート調査結果をめぐって—	共著	平成19年9月	北海道自治研究 (（社）北海道地方自治研究所) 第463号 pp. 1～13	<p>(共同研究のため本人担当部分抽出不可能)</p> <p>札幌丘珠空港までの空港アクセス手段の一つである空港連絡バスを対象とした利用者アンケート調査結果の分析。航空企業、空港ビル会社が連携して旅客利用者に対する情報提供の仕組みを改善する必要があること、バスの運行路線を、安全性・確実性・時間の短縮・燃費軽減の観点から幹線道路の走行を基本とすべき点について指摘した。丘珠空港をリージョナルハブ空港として道内ローカルネットワークを構築するには、道内拠点都市とのモビリティの高度化が必要であり、そのためには空港アクセスの充実も不可欠であると述べた。</p> <p>(共著者) 平岡祥孝、<u>森雅人</u>、千葉昭正</p>
45. 産学連携によるインバウンド・ツーリストの受入体制に関する総合的研究	共著	平成21年3月	平成16年度～平成20年度私立大学学術研究高度化推進事業産学連携研究成果報告 (札幌国際大学) pp. 31～61	<p>「千歳まるごと市場における国際観光客の接遇に関する調査」を分担執筆した。</p> <p>千歳でレストラン・土産物販売を行っている山三ふじや企業グループ「まるごと市場」の協力を得て、外国人と直接触れ合う現場担当者の意見の集約を行った。また、外国人観光客の受入体制強化の供することも目的とした。</p> <p>(共著者) 越塚宗孝、<u>森雅人</u>、榊原潤、瀧澤順久、吉岡宏高、五十嵐元一、吉井守和、肖勇、中村宏、野口裕之</p>
46. 札幌市勤労者の生活実態に関する調査	共著	平成22年5月	平成21年度助成研究論文集 (（財）北海道開発調査総合研究所) pp. 119～133	<p>(共同研究のため本人担当部分抽出不可能)</p> <p>札幌市内の職場に勤務する勤労者の生活実態に関して分析した。昨今の企業経営環境を鑑みたとき、契約社員、嘱託社員、アルバイト社員、派遣社員等、雇用形態が多様化している。このようなモザイク化した職場で仕事を共にしている勤労者の生活実態は明らかにされてきたとは言い難い。本研究では消費支出項目や仕事や生活の不安感及び生活実感の分析から生活実態を解明することを目的として、日常生活における消費支出項目のアンケート調査を行った。</p> <p>(共著者) 平岡祥孝、<u>森雅人</u>、千葉昭正</p>

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 47. インターンシップによって培われる社会人基礎力のデータ解析 I - 高大接続教育のデータベース化に向けた予備的考察 -	共著	平成23年3月	札幌国際大学紀要 (札幌国際大学) 第42号 pp. 185～193	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) インターンシップを実施している北海道内のT高等学校とS高等学校を事例として、インターンシップに対する高校生の意識を把握するとともに、キャリアに対する自己イメージや職業能力のデータベース化に向けた前提条件について検討した。高校生がインターンシップを通して学んだと自覚しているのは社会人基礎力の中でも、特にチームで働く力であり、大学におけるキャリア系科目において、各自のキャリアを振り返りながら、他の授業でもデータベースとして活用する意義について指摘した。 (共著者) <u>森雅人</u> 、堀内明
48. 地域観光資源に向けられるまなざしの変化と教育機関の役割 - 観光地「函館」における高等学校の取り組みを事例として -	共著	平成25年3月	札幌大谷大学社会学部論集 (札幌大谷大学社会学部) 第1号 pp. 177～205	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 新・観光まなざし論の知的枠組みを踏まえて、高等学校の観光教育で扱われている観光まなざし論に関連する内容を整理し、まなざされる対象としての観光地「函館」を事例に、観光の専門教育を展開する高等学校のまなざしの形成に関する取り組みについて論じた。 (共著者) <u>森雅人</u> 、難波繁之
49. 北海道みんぞく文化研究会のあゆみと課題	単著	平成26年3月	北海道地域文化研究 (北海道地域文化学会) 第6号 pp. 3～16	北海道みんぞく文化研究会を創設した宮良高弘氏の著述を踏まえながら、当時の北海道を取り巻くアカデミズム界の動向、沖縄出身の宮良氏が北海道においてモノグラフ研究に着手した背景、社会学演習の活動、母村と移住村の比較研究等について論述しつつ、北海道における地域文化研究の意義について考察した。
50. 北海道の離島における観光振興の諸課題 - 焼尻島を事例として -	共著	平成27年3月	北海道地域・観光研究センター年報 (札幌国際大学北海道地域・観光研究センター)	(共著者) 越塚宗孝、森雅人、丹治和典 自然資源を活かした体験型観光に取り組んでいる羽幌町焼尻島の観光振興に関わる諸課題を整理し、今後の展望について考察した。
51. 地域社会における馬頭観音振興の持続性に関する社会的アプローチ - 北海道を事例として -	単著	平成27年9月	日本の石仏 (日本石仏協会) 第155号 pp. 4～12	馬頭観音振興の持続性を考える場合には、地域社会との関わりが重要であることから、北海道を事例として「信仰圏」「地域開発」「象徴的意味」の視点から生活者による共同主観的・体験的まなざしの意味や変化について検討した。

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 52. 離島の文化とその活用	単著	平成29年3月	札幌大谷大学 札幌大谷大学短期大学部紀要 (札幌大谷大学紀要編集委員会) 第 47 号 pp. 89～93	北海道の日本海側に浮かぶ利尻島、礼文島、天売島、焼尻島における文化資源を掘り起し、それらを観光振興（特に着地型観光）に活用するための課題を明らかにするとともに、住民主体のプラットフォームを構築するための実践的活動の重要性について指摘した。
53. 母村と移住村の比較研究について－獅子舞を事例に－	単著	平成30年3月	北海道地域文化研究 (北海道地域文化学会) 第 10 号 pp. 3～11	北海道の地域社会の文化的特性を読み解くための基準であり、人々の日常的実践的な生活の営みの内面まで踏み込んだ内省的な研究手法の一つが「宮良モデル」である。本論文では、「母村と移住村の比較研究」というアプローチが、「北海道は母村の伝統文化の垂流」という解釈を生んでいるという立場から獅子舞を比較対象として宮良モデルの検証を行った。
54. 「北海道 7 空港の民営委託と地域連携 DMO 千歳観光連盟の役割」	共著	平成 30 年 9 月	日本国際観光学会自由論集（日本国際観光学会）vol. 2	国が目指す空港の民営委託について、国による土地所有権の保留と民間による運営権の設定を航空系事業と非航空系事業の一体運営にするコンセッションの導入と理解し、DMO 千歳観光連盟のマーケティング・マネジメントの方向性を示した。 (共著者) 越塚宗孝、榊原潤、 <u>森雅人</u>
55. 「海外研修－中国雲南省昆明市の大学との交流」	共著	2020 年	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第 50 号	2019 年度、札幌大谷大学キャリア支援プログラム、海外研修（中国）として催行された、雲南省昆明市の大学との交流の記録。当事業の推進により「農たび・北海道」の活動とも関連しつつ、中国の他大都市とは異なる学術・芸術・文化の交流可能性について言及した。 (共著者) 堀じゅん子、 <u>森雅人</u> 、山下成治、島名毅、山田政樹
(その他) (口頭発表) 1. 北海道の年中行事の特徴	単著	昭和55年3月	第61回日本民俗学会談話会昭和55年度民俗学関係卒論発表会 (成城大学)	各戸単位に執行される年中行事を家族形態、家族構成、家族員の役割との関連を中心に考察し、北海道における年中行事の継承差について述べた。
2. 北海道における真宗習俗の展開と変容－他信仰の受容をめぐって－	単著	昭和56年7月	第29回北海道社会学会大会 (北海学園大学)	浄土真宗門徒によって結成された講を村落構造との関連で理解し、新たに導入された他信仰としての報徳思想が移住地での講再編の過程においていかなる機能を果たしたのか、この問題を報徳社報恩講の分析を中心に解明した。

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(その他) (口頭発表) 3. 農村における観光対象化をめぐる一穂別町のケースを中心にー	共著	平成6年10月	日本観光学会第70回全国大会秋季大会 (宮崎産業経営大学)	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 北海道における地域づくりの動きを整理し、消費者(観光者を含む)への直接的働きかけが顕著な多角経営農家の実態を探った。さらに、今後の北海道の農村における観光事業導入について吟味した。 (共同研究者) 森雅人、梅村匡史、越塚宗孝
4. リゾートにおける労働問題	共著	平成7年5月	日本観光学会第71回全国大会春季大会 (山形市)	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) リゾート労働に着目し、その雇用、賃金、労働時間の現状を把握した。また、それらに関わる問題点の整理を行った。本研究は働く人々の側からのリゾート労働問題へ接近を試みたものである。 (共同研究者) 梅村匡史、越塚宗孝、森雅人、香川眞、米田和史、横瀬敏也
5. リゾート労働における仕事のやりがい	共著	平成7年5月	日本観光学会第71回全国大会春季大会 (山形市)	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 本研究においては、リゾートで働く人々を対象として、次の3点からリゾート労働問題へアプローチした。①リゾートに働く人々の労働環境や労働条件、②リゾートに働く人々の仕事のやりがい、③リゾートに働く人々を研究するための方法論。 (共同研究者) 梅村匡史、越塚宗孝、森雅人、香川眞、米田和史、横瀬敏也
6. 地域活性化に果たす地域の人々の役割ー天塩川流域のカヌーによる地域づくりを事例にー	共著	平成7年10月	日本観光学会第72回全国大会秋季大会 (東洋大学)	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) リゾート労働に関する研究の一部として実施した「リゾートホテルに働く人々の仕事のやりがい」の調査結果の報告。観光者にとって魅力あるリゾートホテルであろうとすれば、同時に従業員にとっても魅力ある職場でなければならないという視点から、N国際観光旅館を事例に報告を行った。 (共同研究者) 越塚宗孝、香川眞、梅村匡史、森雅人、米田和史、根橋正一、横瀬敏也

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(その他) (口頭発表) 7. 観光障壁に関する考 察	共著	平成7年11月	北海道観光学会研究発 表会北海道観光フォー ラム95 (登別市)	(共同研究のため本人担当部分抽 出不可能) 障害者の滞在場面におけるバリア 並びに乗馬の可能性についての考 察。車椅子を使用している障害者 でも乗馬が可能なることを実証した 。 (共同研究者) 越塚宗孝、梅村匡 史、 <u>森雅人</u>
8. 高等学校における観 光教育のあり方ー観 光教育ネットワーク 構想と課題ー	共著	平成8年6月	日本観光学会第73回全 国大会春季大会 (北海学園北見大学)	(共同研究のため本人担当部分抽 出不可能) 全国の高等学校における観光教育 の考察。観光教育の成立過程と現 状を分析し、今後の課題を提示し た。特に、高校間の連携、地域、 大学との協力体制を強調した。 (共同研究者) 宍戸学、越塚宗孝 、 <u>森雅人</u> 、梅村匡史、香川眞、米 田和史、根橋正一
9. インターネット利用 による観光情報提供 の試みー北海道オー トリゾートネットワ ークのケースを中心 にー	共著	平成8年6月	日本観光学会第73回全 国大会春季大会 (北海学園北見大学)	(共同研究のため本人担当部分抽 出不可能) インターネット上の観光情報提 供の実状、オートリゾートの観光 情報提供の可能性について吟味し た。特に、インターネットのメデ ィアとしての特性を活かした情報 提供のあり方を強調した。 (共同研究者) 梅村匡史、 <u>森雅人</u> 、 越塚宗孝、宮武清志、近藤淳子、 有山忠男
10. 高等学校における観 光教育の方向性とカ リキュラムの分析	共著	平成8年10月	日本観光学会第74回全 国大会秋季大会 (流通経済大学)	(共同研究のため本人担当部分抽 出不可能) 高等学校における観光教育の考 察を行った。特に、カリキュラム の実態を把握し、今後の教育課程 のあり方について論及した。 (共同研究者) 宍戸学、 <u>森雅人</u> 、 越塚宗孝、梅村匡史
11. インターネットによ る観光情報の提供ー 登別温泉を事例にー	共著	平成8年10月	日本観光学会第74回全 国大会秋季大会 (流通経済大学)	(共同研究のため本人担当部分抽 出不可能) インターネットを利用した観光情 報提供に関する考察。北海道を代 表する観光地、登別を事例にした プロトタイプ作成を試み、今後の 方向性について示した。 (共同研究者) 梅村匡史、 <u>森雅人</u> 、 越塚宗孝、須賀武郎、香川眞、根 橋正一、米田和史

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(その他) (口頭発表)				
12. 自然を活かしたイベントのあり方ー北海道北部地域の実践を通してー	共著	平成9年6月	日本観光学会第75回全国大会秋季大会 (桜美林大学)	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 都市的文化に縛られず、自らの手で自らの地域文化づくりを実践している北海道北部地域に着目し、彼らが実践しているイベントを分析した。結論として、地域の人々のコラボレーションの重要性を示唆した。 (共同研究者) 井上規之、谷口善雄、横瀬敏也、吉原徳人、若月博延、香川眞、梅村匡史、 <u>森雅人</u> 、越塚宗孝、宍戸学
13. 観光研究者の方法論・研究領域に関する考察	共著	平成9年9月	第2回北海道観光学会研究発表会 (札幌国際大学)	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 観光研究の文献レビューを行ったうえで、日本の観光研究者の方法論ならびに研究領域の吟味を行った。総じて、工学系の方法論を用いている観光研究者が多いことを指摘。今後、観光行動、観光現象、への多面的アプローチが必要なことを結論とした。 (共同研究者) 越塚宗孝、 <u>森雅人</u> 、梅村匡史、宍戸学
14. 観光情報の提供手法ー北海道、パーソナルをキーワードとにー	共著	平成9年9月	第2回北海道観光学会研究発表会 (札幌国際大学)	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 観光動向と情報提供の関係、観光情報提供の課題を吟味した上で、パーソナルな時代の情報提供手法について論じた。 (共同研究者) 梅村匡史、 <u>森雅人</u> 、越塚宗孝、宍戸学
15. 地域文化の観光対象化に関する文化人類学的アプローチ	共著	平成9年9月	第2回北海道観光学会研究発表会 (札幌国際大学)	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) 地域文化と観光との関わり、観光に対する文化人類学の貢献等について整理し、今後、観光研究に対する文化人類学の有用性について論じた。 (共同研究者) <u>森雅人</u> 、越塚宗孝、梅村匡史、宍戸学
16. Tourism Education At Four-year Universities in JapanーResearch on Curriculum development and design	共著	平成10年2月	1998 Australian Tourism and Hospitality Research Conference (Griffith University)	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) This study attempts to grasp the status quo of Tourism Education at four-year universities in Japan. The similarities found in terms of curriculum design and specific courses offered. All courses offered in the seven departments are classified into 10 educational domains. (共同研究者) 越塚宗孝、 <u>森雅人</u> 、梅村匡史、堀内満智子、宍戸学

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(その他) (口頭発表) 17. インバウンドツーリストの受入体制に関する総合的研究—観光事業者の期待と課題—	共著	平成20年10月	日本国際観光学会第9回 全国大会 (流通経済大学)	(共同研究のため本人担当部分抽出不可能) インバウンドツーリストに対する関心・期待が高くなってきたことを踏まえ、観光事業側から千歳観光連盟会員100事業所を対象とした利用実態の調査を行い、インバウンドツーリスト受け入れの課題を抽出した。 (共同研究者) 越塚宗孝、 <u>森雅人</u> 、榊原潤
18. 支笏湖地域の観光振興に関する研究	共著	平成22年6月12日	日本国際観光学会第12回 全国大会 (千歳市民文化センター)	近年、宿泊業を中心に民間セクターによる投資が行われている支笏湖地域で観光客を対象にアンケート調査を実施し、観光地イメージの分析を行った。その結果、自然景観やゆっくり滞在観光地として評価が高いが、温泉、交通アクセスについては今後とも継続的に検討すべき課題であることが明らかになった。 (共同研究者) <u>森雅人</u> 、越塚宗孝、榊原潤
19. 北海道における生活文化の観光対象化に関する研究—祝祭を中心として—	共著	平成24年10月27日	日本国際観光学会第16回 全国大会 (東洋大学代々木キャンパス)	北海道で再生産されるローソクもらいの習俗を積極的に活用しはじめた道内の商店街を対象として、その観光文化的意義について考察した。 (共同研究者) <u>森雅人</u> 、越塚宗孝、斉藤正紀
20. 観光経営の展開と手法3	共著	平成24年10月27日	日本国際観光学会第16回 全国大会 (東洋大学代々木キャンパス)	東日本大震災、さらには福島第一原発の事故のような突発的自然災害、事故の状況を念頭に置き、今後の加森観光の観光経営の方向性について吟味した。 (共同研究者) <u>森雅人</u> 、 <u>越塚宗孝</u> 、斉藤正紀
21. 北海道の観光政策の変遷と新たな振興方向に関する考察	共著	平成24年10月27日	日本国際観光学会第16回 全国大会 (東洋大学代々木キャンパス)	1990年代から今日までの北海道の総合計画等に位置づけられた特徴的な観光振興策を点検、検証し、今後の観光振興の方向性を明らかにした。 (共同研究者) <u>森雅人</u> 、越塚宗孝、 <u>斉藤正紀</u>
22. 北海道の郷土料理を探る—積丹町美国及び八雲町熊石の事例を中心として—	単著	平成27年12月	北海道地域文化学会 (北星学園大学)	北海道の中でも早くから和人の移住が行われていた日本海沿岸地域には、特徴ある郷土料理が残されている。本報告では、持続可能なコミュニティモデルを活用した郷土料理の変化の分析を踏まえて、食文化研究の新たな視角を提示した。

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(その他) (口頭発表) 23. 北海道の馬頭さん	単著	平成28年7月30日	第38回石仏公開講座 (大正大学)	北海道に根づいた馬頭観音振興の特徴と教育や観光の場における馬頭さんの活用に関する実態を報告した。
24. 日本の獅子舞と北海道への普及	単著	2019年11月10日	中日学生学術交流会 (中華人民共和国雲南大学滇池学院)	中国大陸から伝来した獅子舞の特徴と北海道への普及について、歴史的・文化的背景を叙述しながら発表した。
(その他) (研究ノート) 1. 農村の部落祭祀 その他(依頼原稿ま は研究ノート)	単著	平成3年3月	しゃりばり (社)北海道開発問題 研究調査会) 110号 pp. 42～43	石狩平野北部の農村地帯に展開する地神祭を鳥瞰したもので、村落形成の違いと祭祀組織、祭の運営、石塔の形態、普及経路、地神の神格、講との比較などを分析視角として地神祭祀の特徴を述べた。
2. 祭りの変化～江差姥 神大神宮の祭り～	単著	平成4年6月	しゃりばり (社)北海道開発問題 研究調査会) 124号 pp. 58～59	江差姥神大神宮の祭りを通して祭りの変化について論述した。戦後の祭日の分離や観光対象化に伴う祭りの形態変化と人々との関わりに注目した。
(その他) (事典・辞典) 1. 観光学大事典	共著	平成19年11月	日本国際観光学会 388頁	日本国際観光学会が、学界と業界の会員138名の執筆によって体系化したもの。 (執筆担当部分) pp. 241～243 「72 観光と地域の文化」 pp. 30 「1511 - 07 観光民俗学」
2. 年中行事大辞典	共著	平成21年3月	(株)吉川弘文館 725頁	(執筆担当部分) pp. 2 「アイヌ暦」、pp. 11 「悪魔祓い」、pp. 32 「イオマンテ」、pp. 51 「イチャルパ」、pp. 96 「絵紙」、pp. 158 「オロチョンの火祭」、pp. 201 「カムイノミ」、pp. 250 「鯨祭」、pp. 320 「さっぽろ雪まつり」、pp. 325 「シンヌラッパ」、pp. 468 「津波除け」、pp. 472 「デヤシコ」、pp. 627 「北海道義士祭」
(その他) (地図) 1. 北海道民俗地図	共著	昭和58年3月	北海道民俗文化財調査 報告書 (北海道教育委員会) pp. 1～90	(担当部分) pp. 69～85 次の項目について概説した。若水、雑煮の餅の形、雑煮の汁、正月七日、正月七日の食べ物、ドンド焼き、ドンド焼きの期日、正月二十日、正月のもの作り、節分、3月31日の行事・内容、春彼岸、5月の節句の名称、5月5日節句の行事内容、送り盆、月見、秋彼岸、民俗芸能。 (共著者) 森雅人、穴田義孝、鷹田和喜三、伊藤裕満

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(その他) (書評) 1. 土屋礼子著『大阪の 錦絵新聞』 (三元社, 1995)	単著	平成9年6月	現代社会学研究 (北海道社会学会)	
(その他) (コラム) 1. 北海道における獅子 舞の保存と活用	単著	平成16年4月	札幌人 ((有) 札幌グラフコミ ュニケーションズ) vol. 1 pp. 67	北海道に伝承された獅子舞、特 に越中獅子舞について、その伝承 母体である若連中の組織と地域社 会の構造との関わりについて論じ た。
2. 札幌の霊場めぐり	単著	平成16年7月	札幌人 ((有) 札幌グラフコミ ュニケーションズ) vol. 2 pp. 42	旅行会社が企画する商品の中で 巡礼には根強い人気があるが、北 海道の巡礼と四国などの歩き遍路 との類似点と相違点について検討 した。
3. 札幌の動物霊園	単著	平成16年10月	札幌人 ((有) 札幌グラフコミ ュニケーションズ) vol. 3 pp. 68	家族の一員であるペットと供養す る霊園の存在について、札幌の実 情を記述した。
4. 妊娠中絶と水子供 養	単著	平成16年12月	札幌人 ((有) 札幌グラフコミ ュニケーションズ) vol. 4 pp. 68	薄野娼妓並水子供養碑のいわれや 、近年の人口妊娠中絶の現状を踏 まえて、水子供養の意義について 触れた。
5. 招き猫と幸福グッ ズ	単著	平成17年3月	札幌人 ((有) 札幌グラフコミ ュニケーションズ) vol. 5 pp. 39	招き猫をはじめ開運招福に関係す るグッズについて、得体の知れな いものと自分との関係を強化しよ うとする若者の宗教観について解 説した。
6. 札幌の信仰碑の道 祖神的性格	単著	平成17年6月	札幌人 ((有) 札幌グラフコミ ュニケーションズ) vol. 6 pp. 67	地藏尊や馬頭観世音碑をはじめと する札幌の信仰碑を紹介しながら 、本州府県の道祖神と同格の機能 を果たしている実態について考察 した。
7. 石狩鍋とエビス信 仰	単著	平成17年9月	札幌人 ((有) 札幌グラフコミ ュニケーションズ) vol. 7 pp. 49	観光客向けの「石狩鍋」として 定着した鮭鍋とエビス信仰との関 わりについて論述した。
8. サケの文化	単著	平成17年10月	観光会議ほっかいどう ((株) リクルート北海 道じゃらん) 15号 pp. 22	自然環境保護と人々の生活との 関わりを知る生きた教材である「 サケ」に注目し、食と観光の両面 からの新たな活用を探った。
9. 札幌の酉の市	単著	平成17年12月	札幌人 ((有) 札幌グラフコミ ュニケーションズ) vol. 8 pp. 47	近年、札幌の白石神社で始まった 酉の市について、東京事例と比較 しながら論じた。

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(その他) (コラム) 10. 商店街の盛衰	単著	平成18年3月	札幌人 ((有)札幌グラフコミ ュニケーションズ) vol. 9 pp. 55	明治18年に狸小路に出現した勸工場以降の歴史を記述した。
11. 円山霊場	単著	平成18年6月	札幌人 ((有)札幌グラフコミ ュニケーションズ) vol. 10 pp. 92	円山の霊場化と成田山新栄寺との関わりや、各地に形成された講中の活動について記述した。
12. 葬式の中華饅頭	単著	平成18年10月	札幌人 ((有)札幌グラフコミ ュニケーションズ) vol. 11 pp. 72	北海道で葬式の引き物に使われていることについて、小豆の加工品を使った精進料理との関連性を指摘した。
13. クリスマスの電飾	単著	平成18年12月	札幌人 ((有)札幌グラフコミ ュニケーションズ) vol. 12 pp. 94	ホワイトイルミネーションや近年ブームの家デコなど、クリスマスに前後して行われている冬のイベントについて記述した。
14. 旧界川跡の遊歩道 と庚申碑など	単著	平成19年3月	札幌人 ((有)札幌グラフコミ ュニケーションズ) vol. 13 pp. 65	旧円山町と札幌市の境界に位置する庚申碑についての伝承。
15. YOSAKOIソー ラン祭り羊ヶ丘展望 台会場のこと	単著	平成19年6月	札幌人 ((有)札幌グラフコミ ュニケーションズ) vol. 14 pp. 93	YOSAKOIソーラン祭りの地域会場の一つ、羊ヶ丘展望台を事例に、地域とイベントとの関わりについて論じた。
16. 七夕のローソクもら いについて	単著	平成19年9月	札幌人 ((有)札幌グラフコミ ュニケーションズ) vol. 15 pp. 87	北海道の七夕に行われるローソクもらいの習俗について、ねぶた流しとの関わりから論じた。
17. すずきの境界の御利 益めぐり	単著	平成20年3月	札幌人 ((有)札幌グラフコミ ュニケーションズ) vol. 16 pp. 8~9	すずきのに所在する玉宝寺祖院(曹洞宗)、新栄寺(真言宗)、永昭寺(浄土宗)、中央寺(曹洞宗)、新善光寺(浄土宗)の歴史や行事について記述した。
18. 龍神信仰の一側面	単著	平成20年6月	札幌人 ((有)札幌グラフコミ ュニケーションズ) vol. 17 pp. 9	日本の龍神信仰について概説し、札幌の難得神社の当該信仰と比較して論じた。

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(その他) (コラム) 19. 難得神社と龍神講	単著	平成20年9月	札幌人 ((有)札幌グラフコミ ュニケーションズ) vol. 18 pp. 8～9	難得神社における龍神信仰と巫 業者や経王寺との関わりについて 論じた。
20. 白石遊郭と祈祷所	単著	平成20年12月	札幌人 ((有)札幌グラフコミ ュニケーションズ) vol. 19 pp. 8～9	大正9年に白石町に移転した札幌 遊郭とサムライ部落と呼ばれた貧 困地域との関わりについて記述し た。
21. 草創期の薄野	単著	平成21年3月	札幌人 ((有)札幌グラフコミ ュニケーションズ) vol. 20 pp. 12～13	明治20年頃の薄野について、遊郭 や寺院を中心に記述した。
22. 都市の魅力と祭り	単著	平成21年7月	札幌人 ((有)札幌グラフコミ ュニケーションズ) vol. 21 pp. 12～13	都市の魅力形成に果たす祝祭イ ベントの役割について、Y O S A K O I ソーラン祭やさっぽろ雪祭 りの事例を紹介しながら論じた。
23. 札幌ラーメン	単著	平成21年9月	札幌人 ((有)札幌グラフコミ ュニケーションズ) vol. 22 pp. 12～13	北海道遺産にも指定された札幌ラ ーメンについて、釧路や函館、旭 川のような地域ぐるみで普及・振 興を図っている例と比較しながら 記述した。
24. 札幌の街と風水	単著	平成21年12月	札幌人 ((有)札幌グラフコミ ュニケーションズ) vol. 16 pp. 12～13	島判官が風水の知識を使って札 幌の街を創ったとする説について 検討した。
25. 遊郭の設置と寺社の 移転ー明治期中の島 公園界限ー	単著	平成22年10月	札幌人 ((有)札幌グラフコミ ュニケーションズ) vol. 26 pp. 12～13	遊郭や取引先の商人等の支援を 受けて発展した明治末期の札幌中 島公園界限の社寺堂宇に関する移 転の歴史について記述した。
26. 「北海道の石造物研 究における新たな視 点」『北海道地域文 化学会ニューズレタ ー』	単著	平成26年12月	北海道地域文化学会	十勝地方の馬頭観世音碑の事例 研究を通して、「地域の共属感情」 を保証する神聖な場所の記憶を掘 り起こす作業の必要性について論 じた。

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
<p>(その他) (調査報告書)</p> <p>1. 支笏湖地域の観光振興に関するアンケート調査</p> <p>2. 八雲町熊石地区の活性化に関する調査報告書</p> <p>3. 積丹町美国地区における郷土料理と祭礼に関する調査報告書</p>	<p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p>	<p>平成27年3月</p> <p>平成27年3月</p> <p>平成28年3月</p>	<p>平成 26 年度支笏湖地域冬期利用実態調査等業務報告書 (一般財団法人自然公園財団支笏湖支部)</p> <p>札幌大谷大学社会学部地域社会学科</p> <p>札幌大谷大学社会学部地域社会学科</p>	<p>冬期に支笏湖地域を訪れた観光客を対象にアンケート調査を実施し、観光客の「支笏湖地域に対するイメージ」と「体験プログラムへのニーズ」に着目し、今後の情報発信や体験プログラムを整備・提供するうえでの課題について検討した。 pp. 3-44</p> <p>多面的な生活文化要素の中から地域住民の「思い入れ価値」を探り、それを活かして観光市場における「資源的価値」を高めるための戦略を練ることを目的に、八雲町熊石地区住民を対象とした聞き取り調査を記録するとともに、地域活性化に関する提言を取りまとめた。 pp. 1-299</p> <p>積丹町美国地区の郷土料理および祭礼を対象として実施した聞き取り調査をまとめたもの。郷土料理には地理的空間的な制約の中で素材や調理法に個性や伝統的様式を備えた食文化というイメージが付きまとうが、近年は日本人のソウルフード、地産地消として関心が高まっており、地域振興を目的に創出されたB級グルメを含めて、その可能性を見出そうとした。 pp. 1-115</p>